

昭和60年2月 第7号
海蔵社協通算 第28号

かいぞう

地区広報



勇壮に舞う

西阿倉川(御厨飽良川)神社

その歴史も
古く

いつ、当社が建立されたかは詳らかではありませんが、慶長六年(一六〇一年)の棟札に「牛頭天王」を祭っていたとあり、またそれ以前の検地帳にも、「天王宮」、「宮之北」、「宮之西」、「宮之上」等の地名が見られ、この地が現在の神社付近であることから、天正の頃には、すでに鎮座していたであろうと推測されています。

明治になつてから、スサノオノミコトを祭る一方、社号を「村社御厨飽良川神社」と定め、近くにあつた春日神社、山神社をも合祀して現在の姿になつてきたと言われています。

郷愁を誘う

笛の音

毎年秋の大祭には、五穀豊穰の祈願と感謝を兼ねて、シシ舞いが奉納されます。

昔から変らぬ笛の音が、家
家に聞こえてきます。

西阿倉川自治会代表

伊藤末男